

1, ねらい

- ・歌や踊りを通じて友達とのコミュニケーションを図り、英語に親しみをもつ。
- ・ネイティブの講師による英語指導の中で英語や外国の文化について知る。

2, 活動のために準備した道具、環境設定

単語付き家族の絵カード、単語付きカラーの絵カード、CD、人形

3, 活動の様子

・はじまりソング

音楽に合わせて全員で挨拶をする。

振り付きの歌のため、子どもたちも大きく身振り手振りしながら歌っている。

・単語の絵カード

講師が色のカードを見せ、「I like blue」「I like yellow」など言ったことを子どもも繰り返して言う。

次に講師が言う色の英語を繰り返して言いながら歩く。

「yellow＝バナナ」が出ると手を頭の上で合わせるしぐさをする。

・単語の家族の絵カード

立ったまま「家族が載っている絵」を見せ、「ワン、ツー、スリー、フォー」と数える。次に名称「パパ、ママ、ブラザー、シスター」と絵を指しながら講師と子どもたちとで一緒に言う。

座って、「brother いる人」と講師が言う。手を挙げている子もいるが、言われている意味が分からなくてそのままの子もいる。担任が「〇〇ちゃんは弟いるよね。手をあげるんだよ」と知らせる。

次に立って、英語で歌って踊りながら、「フリーズ」で止まるという遊びを、人形を使ってする。

「セーフ」で人形が動けるのをみてやり方を知る。

「幸せなら手を叩こう」の曲に合わせて、講師が英語で歌って手をたたいているのを真似する。

・グッバイソング→じゃんけん

いつもの歌ということもあり、子どもたちも歌詞を覚え、たどたどしい発音ではあるが声に出して歌っている。最後に、じゃんけんを行い講師との勝負や触れ合いを楽しんでいた。

4, 振り返り

- ・講師は英語で声のトーンを替え、子どもたちの注目を引いたり、絵カードをポンポンと叩いたりして、子どもたちの意識を向けていた。意識の向け方を再確認できた。

- ・これからすることを、英語で声を出しながら、身振り手振りで分かりやすく示して興味を引いていた。アピールしても理解していないような子がいると、そばに行って再度同じことを繰り返し分かるようにしていた。このような個別指導は、普段の保育にも通じると感じた。

- ・担任も一緒に活動に参加したり、声に出して単語を発音したりしながら講師の指示を聞いて行うことで、子どもたちが理解しているかどうか客観的にみることができた。

- ・「はじまりソング」と「グッバイソング」は4月から毎回繰り返し歌っていることもあり、同じ歌をネイティブの講師の発音を聞くことで、英語の聞き取りに慣れていっている事に気付いた。

- ・参観日を通して、保護者へ子どもたちの英語の取り組みが見られる機会を作っている。

